

をしてる。
上野通子は10年から参院議

員を務めている。高校の国語
教師の後、栃木県議になり、

公募で自民党公認候補として
参院選で初当選した。

大田原高校 (栃木県立・大田原市)

渡辺美智雄、喜美父子

栃木県北東部の、那須野が原扇状地にある大田原市。この地に1902(明治35)年、県立大田原中学校として創設された。県内5番目の中学だった。

戦後の学制改革で県立大田原高校になった。栃木県内の他の伝統校と同様、今に至るも女子の入学を認めていない男子高だ。

略称は「大高」。校訓は「質素堅美」だ。校訓を具体化させる指標として「進修創造不撓不屈 至誠敬愛 奉仕連帯」を掲げている。

校長の植木洋一はOBで、「人間性の内面の成長を重視し、『素地』を磨く教育を目指している」という。

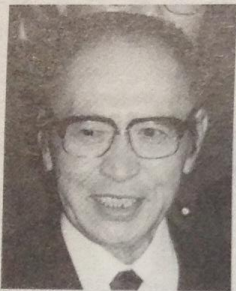
名物行事が二つある。毎年5月中旬から下旬に行われている「85キ強歩」と、1月の大寒のころに行われる「寒稽古」だ。強歩は那須野が原を

2日間、約25時間かけて昼夜歩き通す。例年、9割以上の生徒が完歩する。校訓を象徴する行事だ。

「文武両道」であり、部活動も盛んだ。剣道部は54年に第1回高校総体で団体優勝したのをはじめ、好成績が続いている。山岳部も今年、高校総体8年連続出場を果たした。

大学入試では例年、東北大に10人前後、宇都宮大に20人前後が合格している。東京大、京大など難関大にも毎年、計数人が合格する。

卒業生でもっとも著名なのは、政治家の渡辺美智雄、喜美父子だ。



渡辺美智雄

美智雄は蔵相、通産相、外相、副総理などを歴任し、「ミツナー」の愛称で親しまれた。首相の座まであと一歩というところまで上り詰めたものの、がんに侵され95年に72歳で死去した。

喜美は父の地盤を継承し、96年に衆院議員となった。規制改革、金融担当相として入閣し、自民党を離党し「みんなの党」を立ち上げた。

みんなの党は、国会や地方議会で議席を伸ばし、「第三極」として期待されたが、喜美の化粧品会社社長からの借り入れ問題で解党に追い込まれた。喜美は14年12月の衆院

選で、落選した。OBで24代校長を務めた遠藤忠が栃木県矢板市の現市長だ。千保一夫は前大田原市長だ。

眠不休で治療にあたった。薄葉久はアサヒビールの看板商品である「スーパードライ」の技術開発部長を務め、後に副会長になった。小山田孝司は地ビール会社「那須高原ビール」(栃木県那須町)を起し、代表をしている。

文化人では、ボクシング評論家の郡司信夫、彫刻家では関谷充がいた。日本画の佐藤孝義、洋画の吉成浩昭、彫刻家の三木俊治らもOBだ。

映画監督ではゴジラ映画を作った手塚昌明と、本田隆一が卒業生だ。

声優の緑川光もいる。音楽では、ピアニストの鷲谷幸、フォークシンガールの清水孝宏がいる。

漫才コンビ「U字工事」の福田薫と益子卓郎は大田原高校の同級生で、そろって桜美林大に進んだ。高校時代からアマチュアコンビとしてテレビ出演した。「栃木ネタ」を得意としている。

スポーツでは磯繁雄が早大スポーツ科学学術院教授で、競走部の監督をしている。(猪熊建夫・ジャーナリスト)(敬称略、会社名・肩書などは当時。次回は福岡県・私立久留米大学附設高校)

那須高原ビール

理系では電気工学が専門で、東京工業大と長岡技術科学大で学長をした川上正光が、大田原中学卒だ。薬学の笠原忠、農業土木が専門で土壌の研究を続けている溝口勝、分子生物学の林田信明らもいる。

医師では、小児科医の車田孝夫が、天皇陛下の皇太子時代に東宮侍医を務めた。

石巻赤十字病院(宮城県)の救命救急センター副センター長、小林道生がOBだ。11年3月11日の東日本大震災発生直後には、普段の10倍近い1日1000人の患者を、不